

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-345912

(P2006-345912A)

(43) 公開日 平成18年12月28日(2006.12.28)

(51) Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

A45C 7/00 (2006.01)

A45C 7/00

E

A45C 13/00 (2006.01)

A45C 13/00

C

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2005-172339 (P2005-172339)

(22) 出願日 平成17年6月13日 (2005.6.13)

(71) 出願人 591121292

ヤング産業株式会社

大阪府大阪市平野区平野西4丁目9番5号

(71) 出願人 505220767

有限会社トラスト・リーグ

大阪府大阪市淀川区西宮原1-3-22

第一星栄ハイツ602号

(74) 代理人 100063174

弁理士 佐々木 功

(74) 代理人 100087099

弁理士 川村 恭子

(72) 発明者 仲才 俊明

大阪市淀川区西宮原1-3-22 第一星

栄ハイツ602号 有限会社トラスト・リーグ内

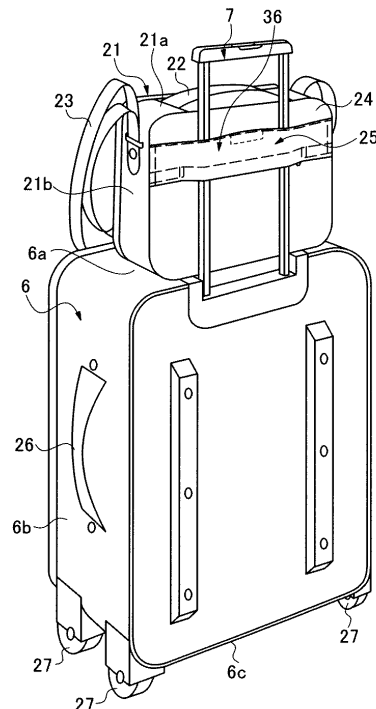
(54) 【発明の名称】 バッグのポケット構造

(57) 【要約】

【課題】 胴部をポケットとして使用することができ、且つポケットのスライドファスナーを閉め忘れても収納物が落ちない、バッグのポケット構造を提供する。

【解決手段】 キャリーバッグ6の上部6aに載置され、該キャリーバッグ6のハンドル7に保持されるバッグ21のポケット構造25であって、該ポケット構造25は、上部シート材28と下部シート材29とをスライドファスナー30を介在させて逢着してポケット用シート部材31を形成し、該ポケット用シート部材31の両端部31a、31a及び下端部31bが前記バッグ21の胴部24に逢着されてなる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

キャリアバッグの上部に載置され、該キャリアバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、

該ポケット構造は、

上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて逢着してポケット用シート部材を形成し、

該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胴部に逢着されてなることを特徴とするバッグのポケット構造。

【請求項 2】

前記下部シート材の縦寸法 L 1 は、前記上部シート材の縦寸法 L 2 よりも長いことを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【請求項 3】

前記上部シート材の下端部には、前記スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【請求項 4】

前記上部シート材の内側と前記バッグの胴部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが逢着されていることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグのポケット構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、キャリアバッグの上部に載置され、更には、キャリアバッグから外して単独でも使用できるバッグのポケット構造に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、この種のバッグとしては、図 7 に示すような構成のものが知られている。このバッグ 1 は、上部に手提げ用の把手 2、及びショルダーベルト 3 を有すると共に、胴部 4 には帯状のベルト 5 が設けられている。また、キャリアバッグ 6 には、伸縮自在なフレーム状のハンドル 7 が設けられており、このハンドル 7 をベルト 5 の下部から挿通して上部に突出させて、バッグ 1 を保持する。

【0003】

また、図 8 に示すような構成のバッグ 8 も知られている。このバッグ 8 は、胴部 9 にポケット 10 を有し、ポケット 10 の下端部 11 には、開閉自在なスライドファスナー 12 が設けられている。このバッグ 8 をキャリアバッグ 6 の上部 6a に載置するときには、ファスナー 12 を開いて、ハンドル 7 を下端部 11 から挿通して、ポケット 10 の上部に突出させることにより、バッグ 8 を保持する。

【0004】

一方、バッグ 8 をキャリアバッグ 6 から外して単独で使用するときには、スライドファスナー 12 を閉めて、ポケット 10 に小物等を収納できるようにする。

【0005】

この他のバッグとしては、例えば実用新案登録第 3045786 号公報、及び特開 2000-308511 号公報に開示されたものが知られている（特許文献 1、2 参照）。

【特許文献 1】 実用新案登録第 3045786 号公報

【特許文献 2】 特開 2000-308511 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0006】**

この従来例のバッグ 1 においては、単独で使用するときに、胴部 4 をポケットとして使用できない。また、ベルト 5 が邪魔であり、見た目にも格好が悪いという欠点を有している。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 7 】

また、バッグ 8 においては、単独で使用するときに、スライドファスナー 1 2 を閉め忘れると、ポケット 1 0 に収納した小物等が下端部 1 1 から落ちるおそれがある。また、スライドファスナー 1 2 が露出した状態にあるので、上着やズボンの生地に触れて傷つけるおそれがあるという欠点も有している。

【 0 0 0 8 】

従って、従来例におけるバッグ 1、8 においては、胸部 4 をポケットとして使用できるようにすることと、スライドファスナー 1 2 を閉め忘れても小物等が落ちないようにすることと、スライドファスナー 1 2 によって生地を傷つけないようにすることとに解決しなければならない課題を有している。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

前記従来例の課題を解決する具体的手段として本発明は、キャリーバッグの上部に載置され、該キャリーバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、該ポケット構造は、上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて逢着してポケット用シート部材を形成し、該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胸部に逢着されてなることを特徴とするバッグのポケット構造を提供するものである。

【 0 0 1 0 】

また、前記下部シート材の縦寸法 L 1 は、前記上部シート材の縦寸法 L 2 よりも長い構成としたものであり、そして、前記上部シート材の下端部には、前記スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられている構成としたものであり、更に、前記上部シート材の内側と前記バッグの胸部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが逢着されている構成としたものである。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明に係るバッグのポケット構造は、キャリーバッグの上部に載置され、該キャリーバッグのハンドルに保持されるバッグのポケット構造であって、該ポケット構造は、上部シート材と下部シート材とをスライドファスナーを介在させて逢着してポケット用シート部材を形成し、該ポケット用シート部材の両端部及び下端部が前記バッグの胸部に逢着されてなることによって、スライドファスナー開いて、そこからキャリーバッグのハンドルを挿通して、ポケットの上部に突出させると、バッグが保持される。

30

また、バッグを単独で使用するときには、スライドファスナーを閉めて、ポケットとして使用できる。この場合、スライドファスナーがポケット用シート部材の中程よりも上部に位置するので、仮にスライドファスナーを閉め忘れてもポケットに収納した小物等が落ちないという優れた効果を奏する。

【 0 0 1 2 】

また、下部シート材の縦寸法 L 1 は、上部シート材の縦寸法 L 2 よりも長いことによって、スライドファスナーの位置がポケット用シート部材の中程よりも上部に位置することとなる。従って、バッグを単独で使したときに、スライドファスナーを閉め忘れたとしても、ポケットに収納した小物等が落ちないという優れた効果を奏する。

40

【 0 0 1 3 】

そして、上部シート材の下端部には、スライドファスナーを隠すファスナー隠し部が設けられていることによって、スライドファスナーが露出しないので、上着やズボンの生地を傷つけないという優れた効果を奏する。

【 0 0 1 4 】

更に、上部シート材の内側と前記バッグの胸部とには、それぞれ対応する位置に面ファスナーが逢着されていることによって、ポケット入口が面ファスナーで胸部に係止される。また、ポケット入口の開閉が自在であるという優れた効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

50

【 0 0 1 5 】

次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、理解容易のため、従来例に対応する部分には従来例と同一の符号を付けて説明する。

【 0 0 1 6 】

まず、図 1 は、キャリーバッグ 6 の上部 6 a に載置されたバッグ 2 1 の斜視図であり、図 2 は、バッグ 2 1 の単独での使用状態を示す斜視図である。

【 0 0 1 7 】

このバッグ 2 1 は、上部 2 1 a に手提げ用の把手 2 2 を有し、側部 2 1 b には肩掛け用のショルダールベルト 2 3 が取り付けられるようになっている。また、バッグ 2 1 の胸部 2 4 には、後述するポケット構造 2 5 を有している。

10

【 0 0 1 8 】

キャリーバッグ 6 は、側部 6 b に把手 2 6 を有し、底部 6 c にはキャスター 2 7 が設けられている。また、キャリーバッグ 6 の上部 6 a には、伸縮自在なフレーム状のハンドル 7 が設けられており、このハンドル 7 を引き出して移動し、不使用時にはキャリーバッグ 6 の内部に収納できる。

【 0 0 1 9 】

バッグ 2 1 のポケット構造 2 5 は、図 3 (イ) (ロ) (ハ) (ニ) に示すように、上部シート材 2 8 と下部シート材 2 9 とをスライドファスナー 3 0 を介在させて逢着してポケット用シート部材 3 1 を形成し、このポケット用シート部材 3 1 の両端部 3 1 a、3 1 a 及び下端部 3 1 b をバッグ 2 1 の胸部 2 4 に逢着してなる。

20

【 0 0 2 0 】

このポケット構造 2 5 の製作工程にしたがって説明する。上部シート材 2 8 は、胸部 2 4 の横寸法と略同一の横寸法に形成されており、また、所定の縦寸法 L 2 に形成されている。そして、この上部シート材 2 8 の内側には面ファスナー 3 2 が逢着される。更に、上部シート材 2 8 の下部は、所定幅が内側に折り曲げて逢着されており、この折り曲がり部位がファスナー隠し部 3 3 を形成する (図 3 (イ) 参照)。

【 0 0 2 1 】

下部シート材 2 9 は、上部シート材 2 8 と略同一の横寸法に形成されている。また、下部シート材 2 9 の縦寸法 L 1 は、上部シート材 2 8 の縦寸法 L 2 よりも長く形成されることが望ましい (図 3 (イ) 参照)。このように縦寸法 L 1 を長くすることにより、スライドファスナー 3 0 の位置がポケット用シート部材 3 1 の中程よりも上部に位置することとなり、バッグ 2 1 を単独で使用したときに、スライドファスナー 3 0 を閉め忘れても、ポケットに収納した収納物 4 2 が落ちないのである (図 2 参照)。

30

【 0 0 2 2 】

次に、下部シート材 2 9 の上端部 2 9 a にスライドファスナー 3 0 の一方の側部 3 0 a を逢着する。そして、スライドファスナー 3 0 の他方の側部 3 0 b をファスナー隠し部 3 3 の上部 3 3 a に逢着する (図 3 (イ) 参照)。このように縫製することにより、スライドファスナー 3 0 がファスナー隠し部 3 3 に隠れて露出しないので、上着やズボンの生地を傷つけない (図 4 参照)。

【 0 0 2 3 】

更に、スライドファスナー 3 0 の先端部側 3 0 c 及び後端部側 3 0 d を押え縫いにより補強して、スライダー 3 4 の抜けを防止する (図 3 (ロ) 参照)。

40

【 0 0 2 4 】

なお、スライドファスナー 3 0 の長さは、キャリーバッグ 6 のハンドル 7 の幅よりもやや長い必要がある。つまり、図 1 に示すように、スライドファスナー 3 0 を開いて、そこからキャリーバッグ 6 のハンドル 7 を挿通して、ポケット 3 6 の上部に突出させるからである。

【 0 0 2 5 】

一方、バッグ 2 1 の胸部 2 4 には、面ファスナー 3 5 が逢着される (図 3 (ハ) 参照)。この面ファスナー 3 5 は、上部シート材 2 8 の面ファスナー 3 2 と対応する位置に逢着

50

される。このように、面ファスナー 35 と面ファスナー 32 とが対応する位置に逢着されることにより、ポケット 36 の入口が胴部 24 に係止され、また、ポケット 36 の入口の開閉が自在になる（図 3（二）参照）。

【0026】

ポケット用シート部材 31 は、両端部 31a、31a 及び下端部 31b が、バッグ 21 の胴部 24 の両端部 24a、24a 及び下端部 24b に逢着される。そして、ポケット 36 入口の両端部 36a、36a 近傍を押え縫いにより補強して、収納物出し入れ時の生地裂け防止を図る。以上のようにして、バッグ 21 の胴部 24 にポケット構造 25 が形成される。

【0027】

次に、バッグのポケット構造 25 の他の実施例について説明する。図 5 に示すバッグ 37 は、長い形状のスライドファスナー 38 が用いられている。この場合、スライドファスナー 38 の先端部側及び後端部側が、ポケット 39 入口の両端部 39a、39a 近傍位置と略同一位置にある。これは、キャリーバッグ 6 のハンドル 7 の幅広に対応させて、スライドファスナー 38 を長く形成したものである。

【0028】

また、図 6 は、ポケット構造 25 を備えるバッグの他の実施例である。例えばブリーフケース 41 にポケット構造 25 を有しており、その上部にはアーチ状の把手 40 が設けられている。

【0029】

以上のように構成されるバッグのポケット構造 25 は、スライドファスナー 30 を開いて、そこからキャリーバッグ 6 のハンドル 7 を挿通して、ポケット 39 の上部に突出させると、バッグ 21 が保持されるので、移動時等に便利である（図 1 参照）。

バッグ 21 を単独で使用するときには、スライドファスナー 30 を閉めて、ポケット 39 として使用できる（図 2 参照）。この場合、スライドファスナー 30 がポケット用シート部材 31 の中程よりも上部に位置するので、誤ってスライドファスナー 30 を閉め忘れてもポケット 39 の収納物 42 が落ちないのである。

【産業上の利用可能性】

【0030】

本発明のバッグのポケット構造 25 は、実施例に示すバッグ 21 に限定されることはなく、例えば、ショルダーバッグ、ビジネスバッグ、ボストンバッグ、ハンドバッグ、ソフトアタッシュ、アタッシュケース、リュックサック、ナップザック等の様々な種類のバッグに設けることが可能である。また、ポケット構造 25 は、布製、皮革製、軟質又は硬質の合成樹脂製、紙製、金属製等の様々な素材で形成されたバッグに対して、様々な素材を用いて形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【0031】

【図 1】キャリーバッグ 6 の上部 6a に載置されたバッグ 21 の斜視図である。

【図 2】バッグ 21 の単独での使用状態を示す斜視図である。

【図 3】（イ）上部シート材 28 及び下部シート材 29 の説明図である。（ロ）ポケット用シート部材 31 の説明図である。（ハ）バッグ 21 の胴部 24 を示す説明図である。（ニ）胴部 24 にポケット用シート部材 31 を逢着する状態を示す説明図である。

【図 4】図 3（ロ）のファスナー隠し部 33 の一部を破断して示した説明図である。

【図 5】バッグの他の実施例を示す正面図である。

【図 6】バッグの他の実施例を示す正面図である。

【図 7】従来例に係るバッグ 1 の斜視図である。

【図 8】従来例に係るバッグ 8 の斜視図である。

【符号の説明】

【0032】

1 バッグ

10

20

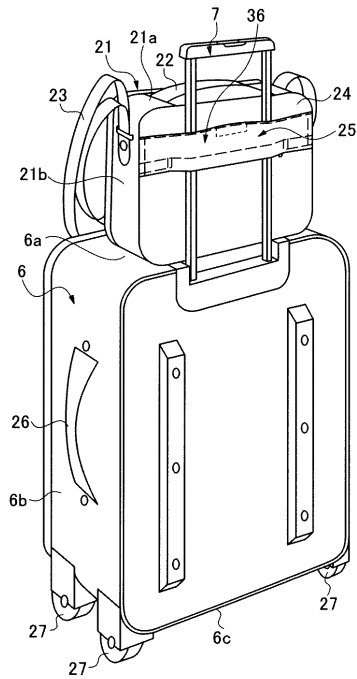
30

40

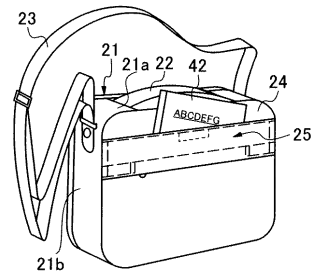
50

2	把手	
3	ショルダーベルト	
4	胴部	
5	ベルト	
6	キャリーバッグ	
6 a	上部	
6 b	側部	
6 c	底部	
7	ハンドル	
8	バッグ	10
9	胴部	
10	ポケット	
11	下端部	
12	スライドファスナー	
21	バッグ	
21 a	上部	
21 b	側部	
22	把手	
23	ショルダーベルト	
24	胴部	20
24 a、24 a	端部	
24 b	下端部	
25	ポケット構造	
26	把手	
27	キャスター	
28	上部シート材	
29	下部シート材	
29 a	上端部	
30	スライドファスナー	
30 a、30 b	側部	30
30 c	先端部側	
30 d	後端部側	
31	ポケット用シート部材	
31 a	端部	
31 b	下端部	
32	面ファスナー	
33	ファスナー隠し部	
33 a	上部	
34	スライダー	
35	面ファスナー	40
36	ポケット	
36 a、36 a	端部	
37	バッグ	
38	スライドファスナー	
39	ポケット	
39 a、39 a	端部	
40	把手	
41	ブリーフケース	
42	収納物	

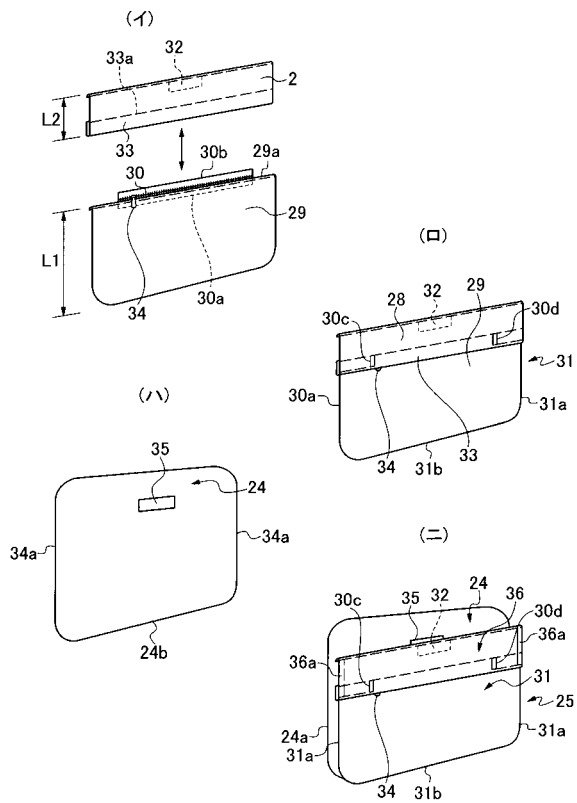
【図 1】



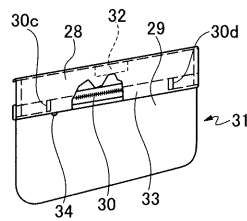
【図 2】



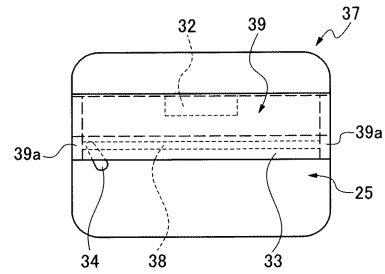
【図 3】



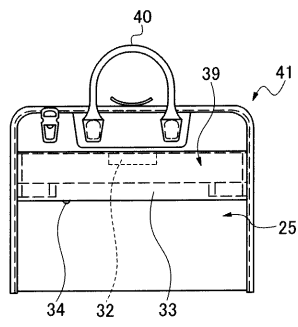
【図 4】



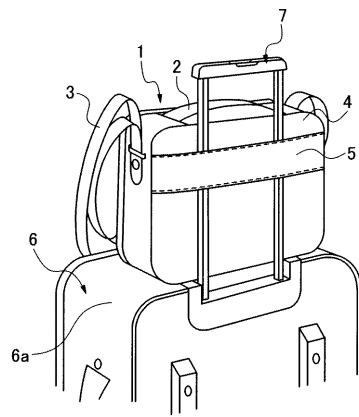
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

